

健康起因事故防止セミナー

健診結果の有効活用

OCHIS



NPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)、武田裕理事長は11日、健

「データに基づく適切な健康管理を通じ、今後とも事故防止を支援したい」と武田理事長

健康起因事故の防止をテーマに、大阪大学中之島センタ

ー(大阪市北区)でセミナーを開き、健康診断結果の有効活用や従業員の健康管理の在り方について事例を紹介した。

武田理事長が「睡眠時無呼吸症候群(SAS)による事故防止に重点を置いて取り組んできたが、他の疾病に起因する事故も増えている。データに基づく適切な健康管理を通じ、今後も

事故防止を支援したい」とあいさつ。全日本トラック協会(星

野良三会長)の永島功常務は「中小零細が大半の運送業界では、産業医を置いている事業所が少なく、運送

事業の実態に詳しい産業医はごくわずか。業態や規模に合った取り組みが必要であり、健診結果のデータベ

健康起因事故対策について、国土交通省自動車局安全政策課の鈴木謙一・安全監理第一係長が講演。大原記念労働科学研究所の酒井一博所長も「運輸事業者をバックアップするための社会的サポート」の必要性を

市)の堂坂佳延社長は、自社の事故防止と健康管理の事例を紹介。「社員と家族の安全、と健康を守る責任があると考えている。日常のどのような取り組みも、安全と健康を守ることに

明した。この後、武田氏がコーディネーターを務め、鈴木、永島、酒井、堂坂、作本、黒田の各氏がパネリストとなってディスカッション。健診データベース構築に際してのセキュリティ問題、健康管理の在り方について意見を交わした。

また、コフジ物流(枚方

運送事業の現場での問題点として、堂坂氏は「SASなどの疾病が原因で退職したドライバーが、健康管理の不十分な事業者の下、再びハンドルを握る危険性もある。従業員の健康管理は業界全体の課題」と話した。(小菓史和)